

真宗佛光寺派
大阪教区・
別院だより

大悲

第 27 号

平成29年(2017年)
10月1日 発行



秋晴れの大阪市役所（大阪市北区）

境内に咲くランタナの花。塀に沿って茂っているので、花が散ったり、葉が枯れたりすると、近所に迷惑をかけてしまうことも。

いつそのこと枝ごと切ってしまうと考えましたが、かわいそうなので思いとどまっていました。しかし、ほどなく花が咲き、それが散ってくるとやはり掃除が大変に。

「やっぱり切ってしまおう」

そう決心したのですが、ふと思いつきました。この花を仏花として使えないかと。

境内にある親鸞聖人像の花立てに、ランタナを入れてみました。ところがこの花は水の吸い上げが悪いようで、数時間後にはしおれた姿に。

「やっぱり切ってしまおう」

そう思った瞬間、その親鸞聖人像と目があつたような気がしました。

役に立つかどうかでいのちを判断している私の心の中を、親鸞聖人に見抜かれているような気がしたある日の午後の出来事でした。

（隅谷俊紀）

と う ひ が ん 到 彼 岸



～大阪別院
彼岸会法話より～

光福寺 たまで そうじゅん 玉出宗順

昨年末の夜、7歳になる次男が突然おう吐をしました。急いで夜間の救急病院に行きましたが多くの患者さんで混雑していて、なかなか診察の順番がまわってきません。

やっと名前が呼ばれ、診察してもらった結果は胃腸炎でした。脱水症状に気を付けて、安静にしておくようにということでした。それから妻と交代で子どもの看病をし、クタクタになって

布団に入る日が続きました。

胃腸炎はすぐに食事を摂ると症状がぶり返すので2～3日は何も食べられません。それを我慢させるのにまた一苦労です。具合が良くなるにつれ「あれが食べたい」「これが食べたい」と大さわぎです。

新年になりやっと食事を摂れるようになりましたが、まずはおかゆからです。しかし「おにぎりがいい」「唐揚げが食べたい」など言い始めました。

私は思わず「そんなものをいきなり食べたらまたしんどくなってしまう」と食べられないようになるぞ！と大きな声を上げてしまいました。すると大粒の涙を流して泣き出した次男の姿を見て「ああ、やってしまった」という思いがこみ上げてきました。

身勝手な姿

つい数日前まで「早く元気になって

欲しい」と願っていたはず。実際、次男が色々と食べたいと言い出したということは元気になってきている証拠です。まずそのことを喜ぶべきです。でもそのことはすっかり頭から抜け落ちていました。

私は次男が元気になってきたと喜ぶべき時に喜ばず、さらにここで食事を摂ったら症状がぶり返してまた子どもがしんどくなってしまうという事よりも、自分が看病などでしんどい思いをしたくないという気持ちが先に立ち、声を荒げてしまったのです。

そんな自分の都合しか考えられない身勝手な煩惱具足の我が身に気付かされた年末年始でした。

(平成29年3月17日勤修の

大阪別院彼岸会法話より)



如^{によ}是^ぜ我^が聞^{もん}

私^{わたくし}一人がためなりけり

中国教区 高福寺 藤末光紹^{ふじすえ こうしやう}師



くれ」という阿弥陀さまの確かな救いのお慈悲を感じ取られます。お念仏ひとつで凡夫を必ず救い遂げる世界が、五劫の思惟によって実現されたのでした。

私一人のため

平成29年6月23日、藤末光紹師を講師に迎え、「親鸞聖人の仏教讃歌に学ぶ」と題して、さつき会（大阪教区坊守会）の研修会が開催されました。

五劫思惟

「♪弥陀の五劫思惟の願をよくよく案ずれば ひとへに親鸞一人がためなりけり ひとへに私一人がためなりけり」

これは山口県の歌手ちひろさんが作曲された「五劫思惟の願い」という仏教讃歌で、『歎異抄』後序にあるお言葉に、「ひ

とへに私一人がためなりけり」と付け加えられています。

万人を救いたい（＝阿弥陀仏に成りたい）と願われた法蔵菩薩は、師の世自在王仏から二百一十億という仏がたの救いの世界を示されます。しかしどこにも凡夫が救われる世界が見あたりません。そこから法蔵菩薩の五劫の思惟が始まります。

凡夫を救う道を求め、果てしなく永いご思案をくださったのは、ひとえにこの私一人を救うためであつたと、親鸞

聖人はただかれました。

二つの味わい

なぜ阿弥陀さまはこれほどご苦勞をくださったのか。それは人生に行き詰まり、袋小路に閉じ込められた思いで生きるこの私がいたからです。親鸞聖人は、五劫の思惟なくしては決して救われることのない我が身、すなわち凡夫という自身の本当の姿を思い知らされます。

しかし同時にそこに「大丈夫だから安心して念仏してお

今回、仏教讃歌を通して五劫思惟のお話をお聞きして、「私一人のため」とまで仰った親鸞聖人のおところに触れさせていただきました。

念仏のお慈悲に包みこまれているからこそ、本当の自分の姿、愚かさとも向き合っていることができるのだという先生のお言葉を胸にいたできながら、最後に皆様とご一緒「五劫思惟の願い」を歌わせていただきました。

（さつき会会長 門川絢子 記）

なにわのみや 難波宮



大阪歴史博物館の地下にある難波宮宮殿跡



大阪歴史博物館の外観

【アクセス】

- ・地下鉄谷町線、中央線「谷町四丁目駅」2号、9号出口すぐ
- ・大阪市営バス「馬場町」バス停すぐ

大阪城の南、NHK大阪放送局の隣に大阪歴史博物館があります。ここでは大阪の歴史的資料を中心に展示しています。そして、幻の宮といわれた難波宮宮殿跡の上に建つ博物館でもあります。

645（大化元）年、蘇我氏は滅ぼされ、天皇中心の新しい政治体制がスタートし（大化の改新）、即位した孝徳天皇は難波に遷都します。日本書紀に「その宮殿のようすは語り尽くせないほど立派」であったと書かれていましたが、所在地は明らかになっていませんでした。

しかし、大阪市中央区の法円坂にあった旧陸軍施設や住居跡から、古代の瓦などがたくさん発見されました。1954年より本格的な発

掘調査が行われ、現在も継続中です。そしてこの調査により、この地に難波宮があったことが証明されました。現在、大半は埋め戻されていますが、予約をすれば博物館地下にある宮殿跡を見学できます。

複都制・副都

難波宮は二つの時期にできたものが同じ場所にあり、古い方が前期難波宮（7世紀）と呼ばれ、新しい方が後期難波宮（8世紀）と呼ばれています。当時、複都制であったこともあり、飛鳥とならび都がおかれました。また、平城京の副都とされています。

大阪の歴史の深さに私自身、感動しました。

（寿栄松正顕）

ごえんさんを訪ねて

こうしんじ 光津寺 (大阪市東住吉区) ふじの よしあき 藤野良昭 住職



桑を積み出す港であったことが桑津という地名のいわれとされ、古代より栄えた歴史ある地に光津寺はあります。

お寺は応永年間に観明によって建立されたと伝わりますが、兵火で焼失、その後再建された本堂も天災で失ったそう、現在の本堂は天保二(一八三二)年に再々建立されたものです。しかし、ご本尊は鎌倉時代後期の作とされ、平成十七年に大阪市指定文化財にも選ばれました。

現住職は光津寺の二十代目となります。

本願寺派から

住職は大学卒業後、実家の浄土真宗本願寺派雲莖寺(東住吉区鷹合)の法務にたずさわりながら、本願寺での勤式の研修を受けておられました。ご縁があり平成三年に光津寺に入寺されましたが、同じ浄土真宗で



本堂内陣

も派が違えば声明も作法も異なり、馴染むのにはいろいろ苦労もあったようです。

アウトドアが大好きで、若い頃には小型船舶1級の免許を取得したり、スキューバダイビングなども楽しまれたそうですが、最近足が遠のいているとのこと。

婦人会の活動

お寺では長年、年に8回坊守さん

と共に婦人会の勉強会活動が続けられています。最近では本山佛光寺発行の聞法テキスト『正信偈』の輪読会を開催したり、法語カレンダーの法語をテーマに住職がお話しされているそうです。「新しい門徒さんにも参加していただくためにはどうすればいいか思案中です」と聞法活動への思いも語っていただきました。

大阪別院の助音として

また、五年前から佛光寺大阪別院の法務や行事を支えていただく助音として活躍されています。昨年は別院境内地の銀杏やメタセコイヤの剪定もしていただきました。

(長田 護)

■光津寺(こうしんじ)

〒546-0041

大阪市東住吉区桑津3-31-31

電話 06-6719-1431

Fax 06-6719-1431

大悲トピックス

■大阪別院にて孟蘭盆会法要を勤修

8月13～15日、午後2時から、大阪別院本堂にて孟蘭盆会法要が勤まりました。

暑い日が続く中、ご家族揃って1000名を超えるお参りをいただきました。

お孫さんの手を取ってお焼香の作法を伝えるお祖母さんもおられ、皆さん和やかに参りされていました。

(大阪別院輪番 葦名 彰)



㊤本堂でのお勤めの際にお焼香をされるご門徒の皆さん
㊦納骨堂前にての法話

■「大悲の会」が後援する布教大会を開催

7月15日、高照寺様(堺市北区・隅谷俊紀住職)にて「大悲の会」がコーディネーターする布教大会が開催されました。

大阪教区所属の布教使である門川崇志師(浄方寺・大阪市北区)、道野真弘師(超願寺・大阪市浪速区)、長田譲師(正念寺・大阪市東住吉区)の三名からご法話をたまわりました。

(大悲の会一同)



㊤長田師の法話の様子
㊦熱心に聴聞されるご門徒の皆さん

■お悔やみ 謹んで哀悼の意を表します

第六組・佛源寺

松山和美様 行年92歳

(8月1日寂)

御本山 近 用達

株式会社 川勝法衣店

フリーダイヤル 0120-075-055

(〒600-8344) 京都市下京区花屋町通油小路東入

電話 (075) 371-0367(代)

FAX (075) 371-5088

本山佛光寺 御用達

石の総合メーカー

株式会社 石留石材

ホームページ

<http://www.ishitome.co.jp>

本社:京都市中京区堀川御池角

TEL 075-841-1149 FAX 075-812-5826

- 大正三年創業の信頼と実績 -

石留石材株式会社

各種石塔・石仏・記念碑

寺社建築石材まで

○ご相談は下記フリーダイヤルへ 携帯・PHS OK

0120-53-5578

[本社・工場・展示場] 藤井寺市津堂2丁目9番29号

浜屋は関西最大級のお仏壇・お仏具・墓石・御寺院お仏具の専門店です。

やすらぎの世界を創る



浜屋

通話料無料/浜屋姫路本社フリーダイヤル

お問い合わせお申し込みは

0120-1616-94

●受付時間/午前10時～午後6時30分

燦ホールディングス グループ

まごころ葬儀を創造する。

公益社

公益社 ご葬儀相談センター (24時間・365日受付・通話料無料・携帯電話OK。)

0120-567-701

※2012年5月現在 ㊦0131

燦ホールディングス グループ

なごみ庵



きたはま KITAHAMA

法要料理

希望の場所までお届けします。

■四條畷店
■瓜破店
■伊丹店

☎0743-78-7521

☎06-6769-0140

☎072-773-7531

※2012年5月現在 ㊦0132

だいひ 絵日記

- 7月15日(土) 大悲の会後援・布教大会(高照寺にて)
 7月19日(水) さつき会研修会(本山坊守研修会参加)
 7月20日(木) 大悲の会編集会議(第27号読み合わせ)
 7月28日(金) 法友会研修会(帰命と礼拝・講師:新田修巳師)①
 8月9日(水) 大悲の会編集会議(第27号読み合わせ)
 8月13日(日) 大阪別院孟蘭盆会(～15日)
 9月5日(火) さつき会研修会(親鸞聖人の仏教讃歌に学ぶ・講師:藤末光紹師)②
 9月20日(水) 大阪別院彼岸会(法話:門川崇志師)
 9月23日(土) 大阪別院彼岸会(法話:長田 譲師)
 9月25日(月) 大悲の会編集会議(第27号発送作業・第28号内容検討)
 9月26日(火) 大阪別院彼岸会(法話:葦名 彰師)

(法友会=住職会、さつき会=坊守会)



「大悲の会」御用達

鮎 旬魚菜 さぐち

地下鉄御堂筋線あびこ駅前
 tel. 06-6696-6880
 〒558-0011 大阪市住吉区荻田 7-5-20
 さつきマンション 1F

京懐石
 和光庵

慶事、仏事、各種会合等の際は、
 和光庵の仕出し料理を
 御利用下さい。

株式会社 和光庵
 〒543-0073 大阪市天王寺区生玉寺町3-32
 TEL06-6774-8090 www.wakouan.co.jp
 西天満店 結心(ゆいごころ)
 〒530-0047 大阪市北区西天満4-10-5-1階
 TEL06-6809-6311 www.yuigokoro.com



株式会社 モントラベル

〒550-0013
 大阪市西区新町1-8-1 行成ビル
 TEL. 06-6531-1344
 FAX. 06-6531-1346
 http://www.monto.co.jp
 仏跡参拝ならお任せください!

協賛

法友会
 さつき会
 佛青懇和会

ご寺院、お役に立てる商品が、
 きっと見つかる情報誌!

寺がある、法が活きる、寺の友社。



株式
 会社 寺の友社

〒611-0002 京都府宇治市木幡平尾54番地の2
 TEL 0120-7676-39 FAX 0120-7676-29
 http://www.teratomo.jp

ご希望の、ご寺院には、無料カタログをお送りします。

表具 八木米寿堂

御本尊掛軸修理 絵画、書の表装

〒600-8073

京都市下京区柳馬場通仏光寺上る

tel 075-351-2853 fax 075-352-3258



どなた様でもお参りいただけます

法要・法話会のご案内



本山佛光寺茶所布教

毎日午前 7 時半

※大阪教区布教使の担当は下記の通りです

12 月 11 日（月）～ 20 日（水）

法話：門川崇志 師（浄方寺）

「大悲の会」後援・布教大会

正念寺（大阪市東住吉区・06-6714-3109）

12 月 12 日（火）午後 3 時

（参加費：500 円）

法話（第一席）：寿栄松正顕 師

法話（第二席）：行友伸二 師

法話（第三席）：葦名 彰 師

大阪別院 報恩講

10 月 27 日（金）午後 2 時より

勤行・挨拶・法話

法話：中井賢隆 師（大阪・最勝寺）

編集秘話

今年の 2 月に還暦を迎えました。若い時には、人間還暦を過ぎれば、穏やかな時の流れの中で、人生の復路をゆったりと過ごせるものだ、とおぼろげに感じていました。大悲の編集に携わり、他のメンバーの自分とは違う視座に毎回大いに刺激を受けています。往路とは違う人生の風景、ありがたいことです。（佐々木）

編集後記

今回担当の巻頭（1 頁）についてですが、この一件があるまで、花の名前が「ランタナ」だとは知りませんでした。興味を持って初めて、道路脇の植え込みや、民家の庭先でも咲いているのを知ること。さらには本山の南門付近でも発見！今まで見ていたつもりでしたが、まったく見えていなかったんですね。（隅谷）

大阪教区・別院だより『大悲』 第 27 号（秋号）

平成 29 年（2017 年）10 月 1 日発行（発行部数 2200 部）

発行：大悲の会

事務所：佛光寺大阪別院内

〒558-0011 大阪市住吉区菟田 6-11-24 電話 06-6691-1362

郵便振替口座：口座番号「00990-4-305218」加入者名「大悲の会」

大悲ホームページ <http://daihi.org/>

大悲の会

長田 譲（会長）

隅谷俊紀（副会長）

寿栄松正顕（会計）

玉出宗順（会計）

門川崇志（監事）

佐々木太一

葦名 彰